

国際看護論	3年・後期	1単位	教授 箕輪 千佳
科目カテゴリー	看護の統合	科目ナンバリング	34121143

1. 授業のねらい・概要

看護のニーズはあらゆる人々に普遍的である。看護ケアは年齢、皮膚の色、信条、文化、生涯や疾病、ジェンダー、性的指向、国籍、政治、人種、社会的地位を尊重するものであり、これらを理由に制約されるものではない（国際看護師協会の倫理綱領の前文）。国境を越えて広域的に広がる健康問題は、感染症をはじめとして地震・津波による自然災害、紛争やテロなどによる難民流出などの人的災害がある。食料不足で生じる貧困と飢餓も広域的である。このように日本はもとより世界の社会状況に敏感に反応できる感性を向け、自ら判断して行動することが国際看護の目指すところだと考え、グローバル化を踏まえた国際看護の基本理念を学習し、看護師の立場でどのようにグローバルヘルスへ参画していくかを考察する。

2. 到達目標

1. 国際看護の意義・目的・活動の場を理解する。
2. 世界の健康問題の現状と課題、国際保健政策を理解できる。
3. 国際看護活動を支える組織や国際協力機関の役割を理解する。
3. 異文化看護を展開するための理論と適応プロセスを理解する。
4. 日本国内における多文化共生と看護の役割を理解できる。

3. 授業の進め方

授業時に配布する資料に沿って授業を展開する。

4. 授業計画

1. 国際看護の目的、概念、対象	5. 国際看護活動を推進する機関
2. 歴史から見た世界の健康課題	6. 異文化理解と看護
3. グローバル化と国際的な健康課題	7. 在日外国人と訪日外国人の医療と看護
4. 世界の健康問題に取り組む国際機関	8. 看護師の国際的移動

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上のコマ数出席者）80%、課題レポート20%として総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：森淑江：国際看護：国際社会の中で看護の力を発揮するために（看護学テキストNiCE）南江堂
ISBN-13：978-4524252640

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

最低1時間の予習の中であらかじめ、授業前に必ず一度は予定範囲を読んでおく。復習(1時間以上)は、その日のうちに行う。

8. 受講上の留意事項

遠隔授業：オンデマンド型の場合は、1コマをそれぞれ最後まで視聴すること。
不明な点、理解できない点があれば、遠慮せず、質問すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

レポートを課し、コメントを付して返却する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目であり修得できない場合には直接、進級不可にはならないが、必修単位と選択単位を合計して、卒業要件単位数を満たさなければならない。